

(様式3)

平成28年度 動物実験等に関する報告

瀬戸内海区水産研究所長

項目	報告内容
1 動物実験等の実施状況	
(1)実施件数	1件
(2)使用動物種	BALB/cマウス
(3)関係研究課題	1)農林水産技術会議食料生産地域再生のための先端技術展開事業・「貝類養殖業の安定化、省コスト化・効率化のための実証研究」及び一般研究課題「内湾・内海域における主要ベントス類を用いた干潟生物ネットワークの調査手法の開発」
(4)実験課題	モノクローナル抗体の作成
2 点検・評価結果	
(1)所内規程の制定	瀬戸内海区水産研究所動物実験委員会規則 平成18年6月1日付け 18水研瀬 第13号 改正 平成24年6月1日付け 24水研瀬 第060103号 改正 平成28年4月1日付け 27水研瀬第032502号
(2)動物実験委員会の設置状況・構成	業務推進部長、業務推進課長、生産環境部委員、環境保全研究センター委員、資源生産部委員により構成、設置
(3)動物実験等の実施状況	1)マウスの腹腔内に第1回目はフロイントの完全アジュバントと抗原溶液の混合液0.1mlを接種、2週間後にフロイントの不完全アジュバントと抗原溶液の混合液0.1mlを接種。2回目の抗原接種から2週間後に尾部静脈に抗原液0.05mlを接種し3日後にエーテル麻酔下で放血により安楽死させ、直ちに脾臓を摘出し、細胞融合に供試した。
(4)教育訓練の実施	平成28年11月29日本部開催の動物実験勉強会に参加。講演「魚類における痛覚・鎮静・麻酔および安楽死法について-実験動物としての魚類」(和田新平日本獣医生命科学大学教授)を聴講し、質疑意見交換を行った。
(5)実験動物の飼養等	適切な給餌、給水を行い飼養管理している。
(6)総合評価	国立研究開発法人水産研究・教育機構動物実験規程に照らし妥当と評価する。